

与党 手腕発揮に期待

議論で国民審判 野党



自民党の菅義偉前官房長官の首相就任で新内閣が発足したことを受け、各政党の千葉真組織代表が16日、談話を出し、引き続き連立政権を組む与党側は、新型コロナウイルス禍を乗り越える手腕発揮に期待し、教育支援や情報公開の徹底などに注文も寄せた。

一方、野党側は、安倍晋三前首相の路線を継承する菅氏の姿勢に「国会で徹底議論し、国民に政権を選んでもらう」と対決姿勢を改めて鮮明にした。

各党県組織代表反応

庶民感覚持っている

自民党県連の渡辺博道会長は「菅首相は安倍内閣での官房長官をはじめ、政府や党の要職を重ねてきた。豊富な経験と実績に磨きをかけて令和の時代にふさわしい庶民感覚を持った首相としての手腕発揮を期待する」と後押し。その上で、

新型コロナウイルス対策と経済再生

の両立、外交、地方創生、デジタル化の推進など「山積する課題に果敢に取り組んでほしい」と望んだ。

医療、教育に道筋を

国土交通相が留任する公明党の富田茂之県本代表は「新型コロナウイルス対策に万全を期すのはもちろん、インフルエンザの流行期を迎える中、国民が安心して受診

できる医療体制の整備を早急に」と注文。経済対策が一定の成果を上げてきたと分析する一方で「説明が十分でなく、国民の納得を得られていない。執行スピードを上げ、情報公開を徹底すべき」と指摘した。休校などで「コロナの影響を最も受けたのは子どもたち。教育政策にも力を注いで。教育の道筋を示すのは政治

の役割だ」とも強調した。

一方の野党側は、自公政権に対抗して政権交代も目指し、15日に旧立憲民主党、旧国民民主党、無所属の国会議員らで新「立憲民主党」を結党したばかり。

何の期待感もない

旧立憲民主の生方幸夫県連代表は「菅政権が誕生したが、残念ながら何の期待感もない。安倍政権の総括もしないうちに早々と路線

継承を宣言したからだ」と突き放した。「長期にわたった安倍政権で日本の民主主義は確実に後退し、アベノミクスで国民生活は疲弊した」と主張。「私たちは生活を立て直すための政策を菅政権としっかり論争し、どちらの政権がいいのか、国民に判断してもらおう」と次期衆院選を見据えた。

政治の緊張取り戻す

旧国民民主の奥野総一郎

県連代表も、安倍政権の政策継承を疑問視。新型コロナウイルス対策としての布マスク全

戸配布やGOTOキャンペーン、桜を見る会問題、閣僚経歴者の逮捕などを挙げて「国民生活に寄り添った対応が行われたとはいえない」と指摘し「国会での十分な議論時間、透明性の高い調査・説明を求める」と訴え。「野党も大きな固まりをつくることのできたので政治の緊張感を取り戻す」と意気込みを示した。

かじ取り任せない

共産党の小倉忠平県委員長は「菅氏は内政、外交、政治モラル、コロナ対策で行き詰まった安倍政権の継承を最大の看板にしており、この国のビジョンを何ら示せない。国民に自己責任を押しつける冷酷な新自由主義がひどくなる危険がある。かじ取りを任せるわけにはいかない」と主張。

「市民と野党の共闘」で次期衆院総選挙に臨む姿勢を改めて打ち出し「自公政権を倒し、希望のある新しい政治の実現に全力を挙げ」との目標を掲げた。